

第 384 回研究報告会 (2026 年 1 月 16 日)

「インドネシアのカレンダー『背景・現在社会反映』」

エニ・スリ・ブディ・レスタリ (天理大学国際学部特任講師)

現在、インドネシア共和国では西暦が使われているが、固有のインドネシアの暦として、ヒジュラ暦、ジャワ暦、ヒンドゥー暦 (サカ暦)、さらに中国暦も併用されている。本発表では、なぜ一つのカレンダーに複数の暦が含まれているのか、その理由を探った。

まず、最も古い日付が記された Kedukan Bukit 碑文には、サカ暦 605 年 (西暦 683 年) とある。ほかにも、Sukabumi 碑文、サカ暦 726 年 (西暦 804 年) には、ジャワ暦の呼び名も見られる。このジャワ暦には、1 週間に 7 日間、6 日間、5 日間の 3 種類があるが、特に 5 日間の呼び名は現在も使われている。また、ヒジュラ暦の遺物は、東ジャワ州のレランや、スマトラ島北部のラムレ墓地、東ジャワのトゥロウランやトゥララヤの墓石群で発見されている。

そして、これらの使用を複雑化させたのは、西暦 1633 年、マタラム・イスラムの Sultan Agung (アグン王) によるサカ暦の廃止と、ジャワとイスラムの混合太陽暦、ならびにジャワ暦体系の変更であった。さらには、中国暦がインドネシア華人コミュニティの文化と習慣、宗教行事において使用されている。

こうして現在、インドネシア共和国の公式カレンダーには複数の暦があり、それは国民すべてのニーズに応えるためである。

第 385 回研究報告会 (2026 年 2 月 18 日)

「大規模言語モデル (LLM) の活用と教育におけるデジタル・プライバシーの重要性」

クーセギ・マーチャーシュ (天理大学国際学部特任講師)

本報告では、大規模言語モデル (LLM) の教育現場における活用と、それに伴うデジタル・プライバシーの課題について検討した。生成 AI は学習支援に有用である一方で、入力された学習内容や個人情報クラウド上で収集・分析され、将来的な二次利用やプロファイリングに組み込まれる可能性を有している。本発表では、こうした中央集権型データ処理の問題点を整理し、その代替として、FOSS の理念、トラッカー遮断機能を備えた Brave Browser および Leo、さらに Ollama 等によるローカル LLM の活用可能性を提示した。教育者には、利便性のみならず、設計思想に基づいた選択肢を学生に示す責任があることを論じた。

2025 年度宗教研究会兼伝道研究会を開催 (2026 年 2 月 27 日)

「天理教と現代社会—これからのおたすけに必要なこと—」をテーマに、2025 年度宗教研究会兼伝道研究会が開催され、天理教正代分教会長の茶木谷吉信氏が発題した。茶木谷氏は、PTA 会長や教育支援員、教諭師など多様な社会的活動に携わってきた経験を踏まえ、布教とは単に教理を説くことにとどまらず、人々の悩みや苦しみに寄り添い、それらを言語化・可視化する営みであると強調した。とりわけ現代社会においては、天理教に関する知識の習得や共感的理解の一部を AI が担いよう状況にあり、人間にしかできない関係性の構築が一層重要であると指摘した。さらに、「臨床教学」という枠組みを提示し、教理 (Dogma)、心理学的側面 (Psychology)、社会理解 (Social Skill)、行動的側面 (Activity) という四要素を統合的に活用する必要性を説いた。そして、「おたすけ」の現場は常に臨床であるとの認識のもと、個別性と集団性を踏まえた実践の重要性を指摘し、今後の天理教の社会的活動と布教の在り方に示唆を与えた (中西光一 記)。

2026 年度おやさと研究所 公開教学講座 「布教伝道と伝道学」

| | | | |
|--------|---------------|-------------------------------|----------|
| 第 1 回 | 4 月 25 日 (土) | 伝道学入門—丸川仁夫『伝道学概論』から考える | 堀内みどり 主任 |
| 第 2 回 | 5 月 25 日 (月) | 異文化伝道論 1—イスラームの宣教活動に学ぶ | 澤井 真 研究員 |
| 第 3 回 | 6 月 25 日 (木) | 異文化伝道論 2—コンゴでの伝道とその課題 | 森 洋明 研究員 |
| 第 4 回 | 7 月 25 日 (土) | 異文化伝道論 3—ブラジルから日本へ：在日ブラジル人の布教 | 中西光一 研究員 |
| 第 5 回 | 9 月 25 日 (金) | 伝道史の探究 1—明治時代における教会設置 | 澤井治郎 研究員 |
| 第 6 回 | 10 月 25 日 (日) | 伝道史の探究 2—『天理教伝道者に関する調査』を読む | 岡田正彦 研究員 |
| 第 7 回 | 11 月 25 日 (水) | 伝道史の探究 3—戦前・戦中の北米伝道 | 尾上貴行 研究員 |
| 第 8 回 | 12 月 25 日 (金) | 伝道学の展開 1—天理大学史の中の「宗教学科」 | 島田勝巳 研究員 |
| 第 9 回 | 1 月 25 日 (月) | 伝道学の展開 2—時代の動きと道の「時句」 | 金子昭 研究員 |
| 第 10 回 | 2 月 25 日 (木) | 伝道学の展開 3—帝国時代とポスト帝国時代の海外布教戦略 | 井上昭洋 所長 |

日時：毎月 25 日 13:00 ~ 15:00

会場：天理大学研究棟 3 階 第 1 会議室

事前申し込みは不要です。
直接会場にお越しください。